

★ 提案5に賛成の議論 ★

California州のリコール制度は、汚職を行っている、または権力を乱用している選出公職者を解職できるようにすることにより、我々の民主主義を守るべきです。リコールは、政治的または党派的な企てとして選挙を「やり直す」ための手段として決して使用されるべきではありません。提案5は、リコールを公正かつ民主的で、過半数の意思に應えるものとすることによって、その本来の目的を取り戻します。

現行法の下では、州全体のリコール投票用紙には、有権者に対する2つの質問が順番に記載されています：

(1) 該当の公職者をリコールすべきか？ (2) リコールする場合、誰が後任となるべきか？

これら2つの質問が連動していることにより、危険な抜け穴が生じています。選出された公職者が、僅差の過半数によって解職される可能性があります。その結果、質問#2に記載された候補者が、選挙で投じられた票の50%を大幅に下回る票数でその公職を獲得できることになります。これは、政治関係者が通常の選挙では破ることができなかった公職者を標的にし、広範な有権者の支持を欠く後任者を据える行為を助長します。

2021年の知事リコールにおいて、私たちはこの事態を目の当たりにしました。有権者はそれを断固として否決しました。リコールは、知事が通常の選挙で勝利した際とほぼ同じ得票差で不成立となりました。しかし、Californiaの納税者は、有権者がすでに決定していた事項を単に再確認したに過ぎない選挙に対して、2億ドル以上を費やすことを余儀なくされました。Californiaにおいて投票する可能性の高い有権者の70%近くが、この取り組みを納税者の資金の無駄遣いであると述べました。そして、仮にリコールが成立していたとすれば、最有力の後任候補者は全リコール投票者のわずか約28%の支持を得ただけで就任することになっていたでしょう。

提案5は、1つの常識的な変更を行います：それは、リコール投票用紙から2番目の質問を削除することです。

提案5の下では、州レベルのリコールにおいて、有権者は非常に単純で重要な1つの質問：つまり公職者を解職すべきか否かを判断

することになります。過半数が賛成票を投じた場合、その役職は空席となり、既存の欠員補充規則に従って補充されます。知事がリコールされた場合、州副知事が知事に就任し、リコールが十分に早い時期に行われた場合、有権者は次回の州全体の選挙で後任を選出します；その他の州全体の公職の欠員は既存の規則に基づく任命によって補充され、議会の議席は特別選挙によって補充されます。近道も抜け穴もなくなり、過半数の有権者の支持なしに後任候補者が公職を獲得することもなくなります。

リコール制度のあるほとんどの州では、欠員はすでに同日の後任選挙ではなく、継承または別の選挙によって補充されています。

2つ目の質問を排除することにより、提案5は、党派的利益のための近道としてリコールを武器化する動機と能力を取り除きます。リコール制度を、通常の選挙結果を覆したり、通常の条件下では勝つことができない候補者を就任させたりするために、不正に操作することはできなくなります。

私たちのリコール手続きの制定者は、腐敗し説明責任を果たさない公職者から有権者を守ることを意図しており、政治工作員が気に入らない選挙結果を覆すための武器を提供することを意図したものではありません。提案5は、公職者の説明責任を問うための手段としてリコールを維持する一方で、それが通常の選挙や多数決の原則を回避するために使用されるのを防ぎます。

多数決の原則を保護し、納税者を守り、Californiaのリコール制度を、それが本来守るべき対象である有権者の手に取り戻すために、提案5に賛成票を投じてください。

Lorrel Plimier、共同代表

California女性有権者連盟

Darius L. Kemp, M.P.A.、専務取締役

California州の政治改革市民団体

Dan Schnur、元委員長

California州公正政治慣行委員会

★ 提案5への賛成意見に対する反論 ★

賛成派が私たちを混乱させ、全く筋の通らないことに理屈を通そうと試みるために行っている、こじつけの議論は無視してください。

賛成派は提案5が「民主主義を保護する」と主張しています。しかし、同案がもたらす結果は正反対です。つまり、私たちのリコール手続きの基本的な要素の1つ：リコールされた政治家の後任を誰にするかを選択する権利を奪おうとしているのです。

それは民主主義を保護することではなく、政治的エリートを保護することです。

彼らはCaliforniaの制度を「危険な抜け穴」と呼びます。この制度は100年間機能しており、職権を乱用する政治家を追放し、そして、よりふさわしいと有権者が判断した人物を後任に据えてきました。提案5は抜け穴を塞ぐのではなく、抜け穴を作り出すことになります。

相手側は事実を歪めてあなたを惑わしています。彼らは、皆様が気づかないだろうと思っています。騙されないでください。

壊れていないなら、直す必要はありません。私たちのリコール制度が「壊れている」のは、選挙公約を破って増税した際に提案5の作

成者がそうであったように、自らリコールの対象となった者にとっただけです。

今や彼は去り際にそれを完全に壊そうとしており、将来のリコールの実効性を低下させ、彼のような政治家に説明責任を問うことを難しくしようとしています。

もし自分の車を下取りに出すとしたら、見返りに何が得られるのか知りたいと思いますか？それとも、署名して車を手放し、後戻りできなくなってから販売員が選んだおんぼろ車を押し付けられても納得できるでしょうか？それこそ、提案5があなたに求めていることです。

負け惜しみしている政治エリートたちが自らの利益のために手を加えることを許さなければ、私たちのリコール制度は今後も問題なく機能し続けます。

反対票を投じてください！

Brian W. Jones、上院少数党リーダー

Joe Patterson、州下院議員

★ 提案5に反対の議論 ★

提案5はあなたの声を奪い、政策で失敗した政治家または腐敗した政治家を公職から排除して後任を据えるあなたの能力を損ないます。

Californiaの政治家はすでに過剰な権力を持っています。提案5は彼らにさらに多くの権力を与え、しかもそれは有権者であるあなたから権力を奪うことによって行われます。

100年以上にわたり、Californiaのリコール制度は、職権を乱用し、公約を破り、あるいは選出された職務を果たさない選出公職者を解職する力を私たちに与えてきました。そして、そのような事態が生じたとき、現行の制度では、後任者を政治家ではなくあなたが選ぶことができます。

提案5はその制度を永久に変え、人々から権力を奪います。

現在、リコール選挙では2つの単純な質問がなされます：選出公職者を解職すべきか？もしそうなら、誰が後任となるべきか？これは、California州民が職責を果たせなかった政治家を解職し、その代わりに新たな人物を直ちに選出できることを意味します。

提案5は最初の部分は維持しますが、後任者に投票するあなたの権利を奪います。

その代わりに、Sacramentoの政界の内部関係者がその後の展開を決定することになります。多くの場合、有権者ではなく政治家自身が誰が欠員を補充するかを選ぶことになり、実質的に、あなたが追放したばかりの人物の後任として、彼らが自分たちの友人や政治的盟友の別の一人を任命できるようになってしまいます。

それ以外の場合では、直ちに後任を置くのではなく、納税者であるあなたが費用を負担する、多額の費用がかかる別の選挙が何カ月も後に実施されるまで、その議席は空席のままとなります。そして極めつけはこれです；怠慢や汚職を理由にあなたが追い出したばかりのその職責を果たせなかった政治家が、自ら失ったばかりの議席を取り戻すために、その次の選挙に出馬することを認められることとなります。

いずれの場合も、あなたの一票の重要性は低下し、政治の既得権層がより大きな支配力を得ることになります。

California州民には、選出公職者を解職し、そして誰が後任となるかを選ぶ権利があつてしかるべきです。提案5はその権利の半分を奪うものであり、それは間違っています。

賛成派はこの提案が民主主義を向上させると主張しています。実際にはそうではありません。民主主義とは、Sacramentoの政治家ではなく有権者が、自らの指導者を選び、いつ彼らを解職するか、そして誰を後任にするかを決めることができるということを意味します。提案5はその根本的な概念を損ないます。

ご自身に問いかけてみてください：もし知事や他の州全体で選出される公職者を解職するために投票するのであれば、誰が彼らの後任となるかもあなたが決めるべきではないでしょうか？

答えは明白です。

そもそもなぜこの提案が投票にかけられているのか、疑ってみる価値もあります。壊れておらず、1世紀以上にわたって問題なく機能してきた制度を、なぜ直すのでしょうか？

実のところ、この提案の作成者自身、ガソリン税は引き上げないと約束していたにもかかわらず、引き上げに賛成票を投じたことで、Californiaの有権者によってリコールされました。民意を尊重する代わりに、彼は今や規則を書き換え、彼のような政治家をいかなる実質的な説明責任からも守ろうとしています。

Californiaのリコール制度は、政治家ではなく人々のものです。あなたの声を守ってください。あなたの一票を守ってください。選出公職者に説明責任を果たさせるあなたの権利を守ってください。

提案5に反対票を投じてください。

Brian W. Jones、上院少数党リーダー
Joe Patterson、州下院議員

5

★ 提案5への反対意見に対する反論 ★

騙されなくてください。提案5は、過半数の投票によって公職者を解職するあなたの権利を維持しながら、ごくわずかな得票で後任候補者が就任することを可能にする抜け穴を塞ぎます。

現行法では、有権者は過半数の投票によって公職者を解職するかどうかを決定しますが、後任者は過半数をはるかに下回る得票で当選できてしまいます。2021年には、後任候補者がリコール有権者の28%の支持を得て知事に就任する可能性がありました。これは多数決の原則ではありません。

反対派は、提案5があなたの選択する権利を奪うと信じ込ませようとしています。実際にはそうではありません。本当の問題は、Californiaの有権者のごく一部からの支持だけで、誰かが知事に就任するべきかどうかということです。

提案5はリコール制度を維持しながら、公職者を解職する決定と、誰が後任を務めるべきかについての決定を切り離します。知事がリコールされた場合、Californiaの有権者によって州全体で選出された州副知事が、有権者が通常の選挙を通じて次の知事を選ぶまで行政の継続性を確保します。

有権者は引き続き自らの選出公職者を選びます。しかし、州全体の公職を目指す候補者は、リコールを権力への近道として利用するのではなく、自らの資質、実績、およびCaliforniaに対する計画に基づいて、通常の選挙においてその職を獲得するべきです。

リコールは、公職者がその職にとどまるかどうかを決定するべきです。誰が政治を担うかの選択は、候補者がCaliforniaの有権者の支持を獲得する通常の選挙において行われるべきです。提案5はリコール制度を守り、多数決の原則を尊重し、候補者が自らの資質に基づいて出馬することを確実にします。提案5に賛成票を投じてください。

Lorrel Plimier、共同代表
California女性有権者連盟

Darius L. Kemp、M.P.A.、専務取締役
California州の政治改革市民団体